認められた幼稚園の先生

鹿児島さみどり幼稚園
友田靜惠

今まで幼兒教育の研究は、小學校のそれとは全く切り離されて考えられていたが、今年度より小學校と幼稚園とが一緒に、研究集會を持つことが出來ることになりました。これは少くとも當鹿兒島縣の、幼兒教育史上實に輝かしい一ページを、飾るものであると思います。

日本でも幼兒教育の最も振わないと云われる、我鹿兒島縣！　殊に封建性の強い當地では、教育といえば青少年の教育のみのように考えられがちで、幼稚園の存在など、極めて影がうすく、心細い次第でありました。

ところが、十一月十三日から六日間に亘つて、九州地區のワーク・ショップが鹿兒島市で開催されますので、その豫行演習が市外玉江小學校で、九月十八日から三日間開催され、幼稚園も初めてこのような研究集會に參加し、小學校や縣當局に認められ、幼稚園というものがクローズアップされ、幼稚園教師の眞價が、認められたのであります。この慶びを、全國幼稚園の皆様に分ちたいとこの拙い一稿をつゞりました。

今年度になり認定講習なども、小學校と一緒で、幾度か机を並べて受けますが、何時も幼稚園教師は、小學校教師よりも、質的に一段と低い者のようにみられがちで、私共は肩身の狭い思いをして、小さくなつておりました。それで今度の研究集會では、小學校側にひけめを取らないように一層勉强をしなければならないと、出席者一同勵げましあつたことでした。研究集會の毎日の日程は、第一時限實演授業「お店ごつこ」二時限、三時限は學年別實演授業の研究、評價、授業者の說明及び、翌日授業の計畫說明などがあり、十一時五十分より二十分、レクリエーション晝食午後は班別研究ということになつておりました。班別研究の內容は、紙面の都合上省略いたします。授業の參觀についても、どこに觀點をおいてみるかと話合い、緊張して參觀いたしました。一日目よりも、二日目と授業研究の仕方も、班別研究の仕方も進歩し、ユーモアも這入り、和やかに、然かも小學校の先生は、兒が妹の手を引いていくような態度で會は進行しました。

二日目のレクリエーションの十分間は、幼兒教育班の擔當でありました。幼兒教育班の構成は、幼稚園側十名（內園長一名）小學校四名でした。これに縣指導主事一名、私達の中で誰もこれはという、隱し藝を持つた者もないので、この十分間を幼稚園を認識してもらうために、幼兒教育の一こまを、實演しようということにして、或る一人が先生になり、他の者は園兒になり、それ〴〵の特徴のある子供を表現することになりました。勿論一度も基詞の練習などは致しませんでしたが、先生になる方に時間だけは注意していたゞき、小學校の男子の先生にも參加をお願い致しました。先づ自由遊びの場を展開、幼兒が任意に積木、自由畫これは黑板畫、人形遊び、繪本讀みなどをやつている中で、少さいけんかの場面などもあり、先生はすべての子供に、それ〴〵適切な指導をなしつゝ、けんかもうまくおさめ、リズム遊びは、動物園ごつこ（リズムに合せて動物の表現をして一人づゝ歩く曲の終つたところで、そばのお友達と替り、

（二三頁下段へ）

四、社會的生活

1 自分ばかりを主張しない
2 友達をいたわりお世話をする
3 自分の事は自分でする
4 きまりをよく守る
5 間違つた時にあやまる
6 人の話をよく聞く
7 ごつこ遊びがよく出來る
8 うそを言わない

右の品等法は三段階とする。

五、行動の發達と記錄

1 友達とよく遊ぶ
2 他を認め自己を主張する
3 自分より小さい者をいたわる
4 責任を重んずる
5 禮儀正しい
6 きまりを理解して守る
7 安定感がある

○

最後に私がミス・アンブローズ女史から受けたサゼッションの中でどうしても皆樣にお傳えしたいと思ふことを二三のべておわりにいたします。

○何かの研究にあたる場合には必ず大きな問題を細い項目に分けて考え、一つ〳〵を正しく研究すること。

○研究項目について一つ〳〵研究した事を必ず具體的に（その研究過程）書いて見る又一人〳〵が研究した事を發表報告し合ふ（その場合どんな小さな問題でも、又發言の內容が貧弱でもとりあげて考えること、二三の少ない人の發言や研究を中心にして結末を早くつけないこと）

○自分の體驗したこと、研究した事をありのままに紙に書き表はすことが研究の第一歩で又一番大切なことである。（下略）

（三六頁より）

そのお友達が何々と次に表現する動物の名をいう）をしました。どのレクリエーションよりも、優れた効果をあげ、滿場破れるような拍手喝采をはくし、其の日から幼稚園の先生の價値が大いに認識され、翌日の授業評價の時には、指導主事の意見として「今までどうも幼稚園の先生のように、子供の生活の中に入つて、指導するという點がかけていた。此の點我々は幼稚園の先生に大いに學ぼうではないか」と云つて戴きました。又閉會の時の縣當局者の挨拶の中でも「幼稚園を可愛がろう幼稚園を參觀して幼稚園の先生に敎えてもらおう」という言葉がいく度か聞かれ、この集會は幼稚園の認識を高めて貰うための會であつたようにすら感じられたことでした。

（一六頁より）子供との關係に於てどうだつたか、自分の豫想や期待に對してどうだつたか。これは自分ばかりでなく、同じ職にある友達と話し合うのも大に意味があろう。多分何等かの不滿不足を見出さないことはあるまいと思う。

私なども度數に於てどのくらい子供たちに話したか知れないが、未だ嘗て『これで充分、これで滿足』ということがあつたためしがない。つくづくお話の世界の奧深いことを感ぜざるを得ない。恐らくそれは無限であろう。努力は無限であり、骨折は無限であり、精進は無限であるだろう。しかし、だからこそその意義も無限である。喜びも無限であり光榮も亦無限であるだろう。